

# 古代にタイムスリップ

日時：平成30年11月23日（金曜日）9：00～12：00  
場所：宇宿貝塚史跡公園・奄美市歴史民俗資料館  
講師：望月 信悟さん、向田 秀明さん、喜友名 正弥さん  
参加者：児童・生徒41人、保護者18人、計59人



今回のタツコンホールは秋名・幾里のショチヨガマでした



奄美歴史民俗資料館



古代の生活、環境にみんな興味津々です

実際に貝や石を触って大きさや重さを体感



宇宿貝塚史跡公園



第5回目の講座は、宇宿貝塚史跡公園と歴史民俗資料館へ高学年グループと低学年グループの2つに分かれて見学に行きました。宇宿貝塚史跡公園では、望月先生から宇宿貝塚という遺跡からどのようなものが発掘され、どんなことが明らかとなったのかを解説していただき、その後、喜友名先生からは学芸員のお仕事紹介から発掘調査を行う意味や重要性、新たな歴史を解明するわくわく感についてお話を伺いました。また発掘調査で得られた土器や石器、貝類などを特別に触らせていただきました。そして歴史民俗資料館では向田先生からは、私たちの遠い先祖がいつから奄美に住み始め、いつから外の人（沖縄や九州本土）と交流を行い、どのような交易を行うことで独自の文化が形づくっていったのかを解説していただきました。

この講座を通して戸口小4年の宮山来三さんは、氷河期の海は陸地が見えるほど水が少なかったこと、赤徳小6年の松田直太郎さんは木をくりぬいた丸太舟なら黒潮を渡ることができたことがわかったそうです。

先生方のお話を聞いて、昔の人たちが奄美でどんな生活をしてきたのか、もしかしたら自分たちの身近にも数千年前の土器が埋まっているかもしれないとわくわくしたのは？先生方のお話を思い出しながら、今の暮らしと昔の暮らしを比べてみてもまた面白い発見があるかもしれませんね。

